

# News Letter

■2008年12月19日発行 ■編集・発行／三重大学高等教育創造開発センター

## 2008年度 第5回全学FD「三重大学教育改善研修会」の報告 「教育系外部資金の申請書の書き方講座」

2008年12月3日(水)の15:00から17:00にかけて、第5回全学FD「三重大学教育改善研修会」を開催しました。愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室の佐藤浩章(さとう・ひろあき)准教授をお招きして、「教育系外部資金の申請書の書き方講座」という演題でご講義いただきました。

この研修会を開催した目的は、文部科学省が各大学における教育改革の取り組みを財政的に支援する事業に、三重大学の教職員が応募するのを支援するためです(文末参照)。佐藤先生は、教育GPを含む4つのGP事業が採択された愛媛大学における申請書の作成者であり、教育GPの審査員でもあります。その両方のお立場から、教育GPを獲得するための秘訣をお話し下さいました。

### 愛媛大学の事例紹介

最初に、愛媛大学の事例として、2006年度に獲得した「特色ある大学教育支援プログラム」であるFD(ファカルティ・ディベロップメント:教員の資質開発)／SD(スタッフ・ディベロップメント:職員の資質開発)、TAD(ティーチング・アシスタント・ディベロップメント:TAの資質開発)の三位一体の能力開発に関するプログラムの内容をご紹介下さいました。その中で、実際のヒアリングにおける質問事項とその対応について説明がありました。

次に、愛媛大学におけるGPの対策方法、教育系外部資金を獲得するために必要となる教育プログラムの要素についてお話し下さいました。この要素として、必須の要素、実績に関する必須の要素、評価者による主観的な要素について説明がありました。具体的には、次のとおりです。



### 必須の要素

#### ①<ニーズの把握>

教育プログラムの必要性を分析していることが重要である。学生にとって、10年後、20年後に役立つ内容であることを説明する必要がある。

#### ②<目的・目標>

目的や目標を明確に設定することが重要である。「なぜ学ぶ必要があるのか?」という問いへの回答を示したり(目的)、教育プログラムの到達目標を示したり(目標)することが重要である。

#### ③<教育方法>

適切な教育手法を選択していることが重要である。具体的には、知識の伝達、技能・技術の習得、問題解決、創造性の開発、態度の変容のそれぞれに適した教育手法がある。

#### ④<評価方法>

大学自身が評価の指標を持っていることが重要である。教育目標を明確に設定している申請書が選定されている。

### 実績に関する必須の要素

#### ①<成果>

教育プログラムに取り組む前と比べて、成果を出している必要がある。右肩上がりのグラフで示すことが有効であるために、グラフの提示法についても工夫が必要になる。

#### ②<継続性>

今後の計画を示すだけでなく、教育プログラムの内容について、申請以前に最低2年は取り組んでいる必要がある。

#### ③<組織性>

組織的な取り組みであることが重要になる。選定の対象となりにくい申請内容として、思いつきであること、個人的な取り組みであることなどがある。

## 評価者による主観的な要素

(評価者によって判断が分かれる要素)

### ①<現代的ニーズ>

現代社会において必要とされる内容であることが重要である。

### ②<独自性>

なぜこの大学で取り組む必要があるのかを説明することが重要である。他大学ですでに採択されている内容の教育プログラムは選出されにくい。独自性を示すポイントとして、地域性、建学の精神、地域や大学の歴史などがある。

### ③<普遍性>

他大学でも「やってみたい」「やれそうだ」という内容であることが望ましい。特殊な内容では、他大学の参考にならないために、選出されにくい。

### ④<熱意>

実施主体に熱意があることが重要になる。多くの審査員が「(申請者の)熱意に圧倒された」という評価をしているために、熱意を示すことも有効である。

説得力が増したのではないか。

・問題解決型学習(PBL), Moodle(学習管理システム), AI法という3つの関係がわかりにくかった。

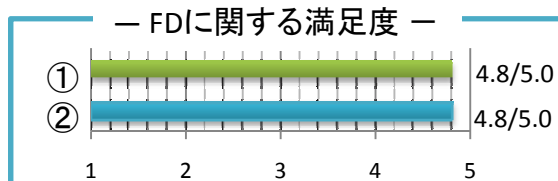
佐藤先生からいただいた主な指摘のポイントとして、一般的な問題意識にもとづいている(三重大学の現状にもとづいていない)こと、AI自体がわかりにくいこと、取り組みに関する6つのポイントを設定しているが設定するのは3つが限度であること、共感能力の測定指標がないことなどがありました。



## 研修会の終了後も・・・

研修会終了後の17:00から18:00までを個別相談会の時間として設定しておりましたが、18:00を過ぎても活発な意見交換が終わらない程のたいへん充実した研修会となりました。

参加者による事後アンケートによっても、今回のFDが満足度の高いプログラムであったことが明らかになっています。「①本日の講演内容に満足した」、「②教育系外部資金獲得のためのポイントが理解できた」に対する回答がともに4.8という結果になりました。



(高等教育創造開発センター 長澤 多代)

## 三重大学の事例紹介

次に、2008年度に三重大学が申請した「質の高い大学教育推進プログラム」である「共感形成型PBL教育の全学的展開:「市民社会」に生きる自立した学生の養成」の内容が三重大学の関係者から紹介されました。15名の参加者(教員12名、職員3名)は、審査員の立場で申請内容を評価し、他の参加者と意見を交換しました。

参加者が指摘した主な点は次のとおりです。

- ・申請内容の中心的概念であるAI(appreciative inquiry, 共感形成)について説明を受けたが、よく理解できなかった。具体例も含めて説明すれば、わかりやすかったと思う。
- ・学生がAI能力を習得することの必要性をもう少し系統的に説明した方がよかった。
- ・スライドの図の量が多すぎた。内容を減らし、図をもう少しシンプルなものにしてもよかった。
- ・ニーズの把握のところで、数値のデータがあれば

佐藤先生の講演内容については、次のページに論文があります。

<http://web.opar.ehime-u.ac.jp/download6.htm>

文部科学省が支援する大学教育改革推進プログラムに関する詳しい情報については、

[[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/kaikaku/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/index.htm)]をご参照ください。

三重大学では、大学教育改革推進プログラムの申請に向けて、学内公募・選考をします。

締め切り 2009年1月15日(木) 17:00

提出先 学務部教務チーム (kyomu-k@ab.mie-u.ac.jp)

※学内公募に関する詳しい情報は[<http://www.hedc.mie-u.ac.jp/newspdf/local/08GPKoubo.pdf>]をご参照ください。申請に関するお問い合わせは、学務部教務チーム(内線6815)までお願いします。